

神社・寺院



佛乗寺（廃寺）あみだ如来像

一 町内神社一覽表

川										上										地区																																																				
所在地	神社名	祭	神	鳥居年号	所在地	神社名	祭	神	鳥居年号	所在地	神社名	祭	神	鳥居年号	所在地	神社名	祭	神	鳥居年号																																																					
川上	河上神社(淀姫社)	与止日女(ヨドヒメ)ノ神		慶長一三 一六〇八	川上	貴船神社	クチオカミノ神(タカオカミノ神又はミズハノメ神ともいう)	(立石)元禄五 一六九二	元文五 一七四〇	西山田	天満宮	菅原道真(スガワラノミチザネ)	昭和一五 一九四〇	小隈	天満宮	菅原道真(スガワラノミチザネ)	昭和一五 一九四〇	東山田	天満宮	菅原道真(スガワラノミチザネ)	天保一〇 一八三九	大願寺	天満宮	菅原道真(スガワラノミチザネ)	宝暦一三 一七六三	〃	五社明神社	春日大明神・ヒメノ神・仲哀天皇・神功皇后・応神天皇	宝永一〇 一七六三	〃	真如弁天社	弁財天	宝暦一〇 一七六三	〃	乙護法(オトゴホウ)善神	明和二 一七六五	〃	乙護法善神・弁財天・菅原道真	享保一七 一七三二	大久保	弁財天・天満宮	乙護法善神・弁財天・菅原道真	文久二 一八六二	水上	七社神社		文久二 一八六二	江熊野	神変社	彦山権現・役(エン)ノ行者・菅原道真	享保一七 一七三二	上戸田	松森稻荷神社	倉稻魂(ウガノミタマ)ノ神	文政二 一八一九	〃	天満宮	菅原道真	明和八 一七七二	下戸田	天満宮	菅原道真	寛政四 一七九二	立石	若宮神社	応神天皇(八幡大神)	享保一七 一七三二	平田	五社神社	春日大明神・ヒメノ神・仲哀天皇・神功皇后・応神天皇	不詳 一七三二	文政七 一八二四

松		梅		春		日														
井手ノ口	田中	柚木	三反田	広坂	井手ノ原	井手	梅野一區	八反原	八坂神社(天満宮)	駄市川原	五領	惣座	出羽	上町	春日	福田	野口	北原	小川	
杉大明神社	富士神社	猿大明神社	八坂神社(祇園社)	三十番神社	敬島神社	弁財天	梅野神社	熊野神社	八坂神社(祇園社)	北村神社(天満宮)	印鑰	地主神社	羽黒権現社	印鑰	甘奈備八幡社	福田神社(天満宮)	天満宮	富士神社	天満宮	
	イザナギノミコト・イザナミノミコト・コノ花サクヤヒメ	猿田彦命	スサノオノミコト	法華三十番神	タギリヒメノミコト・イチキシマヒメノミコト・タギツヒメノミコト	弁財天	イソタケルノ神・三女神	熊野三所権現(イザナギノミコト・イザナミノミコト・菊理姫命)	スサノオノミコト	菅原道真	オオナムチノカミ(大國主命)	大國主命	倉稻魂(ワガノミタマノ神)	オオナムチノカミ(大國主命)	アノコヤネノミコト・応神天皇	菅原道真	菅原道真(石像)延宝六年(一六七八)	イザナギノミコト・イザナミノミコト	菅原道真	菅原道真
	昭和 一七		寛政 三	不詳	天保 七	寛延 二	不詳	宝永 元	安永 七	慶長 二二	明治 二六	〃	〃	〃	不詳			寛政 三	元禄 一三	
	一九四二		一七九一		一八三六	一七四九		一七〇四	一七七八	一六〇七	一八九二							一七七一	一七〇〇	

春		日		川		上												
東古賀	久池井	鍵山	国分	真島	城崎	福馬場	横馬場	今山	今古賀	山王	吉富	久留間	佐保	於保	〃	橋田	池上	平野
延喜社	天満宮	鍵尼神社(養父社)	国分神社(天満宮)	真島神社(天満宮)	若宮八幡社	妙見神社	鎮守社	男女神社	諏訪神社	山王社	天満宮	天満宮	兵動八幡社	天満宮	熊野神社	天満宮	池上神社(八龍社)	白山妙理権現社
延喜大王	菅原道真	養父(ヤブ)大明神	〃	菅原道真	応神天皇	アミノミナカヌシノミコト	彦山権現・八幡大神	イザナギノミコト・イザナミノミコト	タケミナカタトミノミコト・八坂トメノミコト	山王権現	菅原道真	菅原道真	応神天皇・菅原道真	菅原道真	イザナギノミコト・イザナミノミコト・スサノオノミコト	菅原道真	八大龍王・海童神・菅原道真	白山権現
	文久 二	万延 元	享保 二	寛政 四	享保 三	享保 一三	文政 四	安永 三	宝暦 二	安政 二	文化 三	文化 一三	天明 五	寛政 元	享保 二	宝暦 五	寛文 九	文政 五
	一八六二	一八六〇	一七一七	一七九二	一七一八	一七二八	一八二一	一七七四	一七五二	一八五五	一八〇六	一八一六	一七八五	一七八九	一七一七	一七五五	一六六九	一八二二

梅	棧敷	猿田彦神社	猿田彦命	不詳
四坊	猿田彦神社	〃	〃	不詳
下田	天満宮	管原道具	〃	〃
都渡城	文珠宮	文珠菩薩(モンジユボサツ)	〃	〃

二 町内の神社について

大和町で神社と称するもの六十一社を挙げたが、この六十一社の祭神は九十一神でこれを大別すると皇祖神系が五十七神で三十四神が人格神である。

皇祖神系というのは、日本の国土創生に関係のある神々で、天^{アメノ}・御^ミ・中^{ナカ}・主^{ヌシ}・高^{タカ}・皇^{ミコ}・産^{ムスヒ}・靈^{スミ}・神^{カミ}・皇^{ミコ}・産^{ムスヒ}・靈^{スミ}・イザナギ・イザナミ・天照^{アマテラス}・スサノオ・ツキヨミ・大^{オホ}・巳^{ナミ}・貴^{ノミ}(大國主命)の神たちである。

又、人が人を拜む、人も神になれるという日本人の思想信仰から人格神が生まれたのであるが、この人格神として、大和町内では応神天皇、神功皇后及びその妹、仲哀天皇、菅原道真等が祭られており、中でも菅原道真はこの人格神三十四のうち二十二の六十五%を占めている。

古代民族は、自然の中の天には天の神、地には地の神、田には田の神、山には山の神、川には川の神があるとし、それを心の拠^より所として信仰し続けてきたのである。そしてその信仰が同時に「ふるさと^{ふるさと}の心」でもあり、「日本人の心」でもあったのである。これらの神社のうち幾つかについて簡単に述べるが、「文化財」の史跡や石塔婆類の項にも幾らか記しているのでそこも参照されたい。

1 天神さん

天神さんは天満宮に祭られ、この辺では「オテージンさん」と呼んでいる。天満天神すなわち菅原道真のことである。本来「天神」というのは、国津神^{くにつ}に対する天津神^{あまつ}の総称で、各地に天神を祭った神社が多かったが、その天神が菅原道真を祭ったもの(天満宮)と解されるようになったのは平安末期からである。それは悲運な晩年を送った道真の怨霊^{おんりょう}がはたらいで、京都その他に悪い病気を流行させたと考えられ、北野の天神がその霊を鎮^{しず}める役割を果たしたことに由来するという。やがて各地にあった天神社も御神体を道真に統一するようになったが、一方北野には古くから雷神の信仰があったため、道真の霊の活動は雷火をもって象徴され、その信仰が全国に及んで、天神と道真と雷神の信仰とが結び付いたものと考えられている。後には文道の大祖、学問の神様として敬まわれ、江戸時代には各地に末社^{すえ}が勧^か請^ぐされて、全国各地に天満宮が建てられるようになった。

2 権現さん

権現^{けんげん}は「権化^{けんげ}」で「権^{けん}に現^{げん}われる」という意味であり、神や仏が人々を救済するため、種々の姿をとつてこの世に現われることである。我が国においては、奈良時代の仏教興隆の頃から、仏や菩薩^{ぼさつ}(仏の次の位)が権化をなすと考え、特に観世音菩薩は種々の姿で現われて人々の苦惱を救うとされた。

平安時代に入ると、日本の神々は仏の化身^{けしん}として現われたものだとする本地垂迹^{ほんぢすいじやく}説が説かれ、仏教と神道の習合が行われて、菩薩の称号に代って権現の称号が用いられるようになった。